

たも屋

アジアで店舗展開加速

現地資本とF C契約

うどん店経営のたも屋(高松市)はアジア地域での出店を加速する。シンガポールに続き、8月末にはインドネシア1号店となる店舗をジャカルタにオープン。今後は現地資本とのフランチャイズ(F C)契約で出店スピードを速め、2016年3月までに10店舗、17年末には店舗網を70店舗にまで増やす計画だ。

たも屋は13年3月にシンガポールに初の店舗を構えて海外進出。同年7、12月にはシンガポールで2、3号店を相次いでオープンし

た。各店では香川から小麦粉やだしなどの原料を輸送して本場の味を忠実に再現。さぬきうどんの特徴のセルフ方式を持ち込み、天



たも屋が8月末にオープンしたインドネシア1号店
—インドネシア・ジャカルタ

ぷらのトッピングを自由に選べるスタイルも現地の人たちに人気を得ている。

インドネシア1号店は8月28日にジャカルタ北部の大型ショッピングセンター内にオープン。150席を有する大規模店で、シンガポールの3店舗同様、セルフ方式を採用する。オープン

初日から多くの来店客でにぎわっているという。

たも屋は海外進出に合わせ、飲食店の海外展開を行うジャパン・フード・カルチャー(シンガポール、J F C)とF C契約を結び、うどん店経営のノウハウを提供。シンガポールの3店舗はJ F Cが運営していたが、インドネシアの店舗はJ F Cが現地オーナーとさらにF C契約を結んで出店した。

今後は現地資本を活用するこの方式で出店を加速する。J F Cは既にベトナム、台湾でも現地オーナーとF C契約を結び、出店準備を進めている。

たも屋は「アジアに限らず、北米など他地域での店舗展開も目指したい」としている。

思い出の○○輪和話

永瀬 誠(さぬきJ C)



青年会議所での生活も10年目。今年が最後の年になります。一番の思い出は2013年に丸亀城を舞台に開催した「全国城下町シンポジウムさぬき京極大会」です。

この大会は、お城、城郭を街に有する全国各地の青年会議所が年に1度集まり、「城下町でのまちづくり」をテーマに開催されます。